

## シニアクラブ浜松市

○総人口 790,580人      ○65歳以上人口 225,153人      ○高齢化率 28.5%  
○シニアクラブ会員数 17,846人      ○シニアクラブ加入率 7.9%

### ～シニアクラブ浜松市 亀玉地区連合会～

#### 《概況》

○内閣府の調査によると引きこもり状態になった人は全国で100万人（15～64歳）以上いると推測され、亀玉地区内でも多くの方がその状況にあると考える。

地域の課題として地域自治会、町内会等地域各種団体を巻き込んで講演会を企画した。

開催準備：令和5年4月10日 四大地会館 役員会 取り組み趣旨説明 33名

令和5年4月27日 四大地会館 社会福祉協議会役員と打合せ 7名

令和5年6月10日 四大地会館 役員実施計画検討 30名

令和5年6月12日 事務局 実施計画書提出

令和5年7月10日 四大地会館 役員会 具体的な取り組み決定 30名

令和5年7月31日 大屋敷公民館 シニアクラブ、社協、自治会役員打合せ  
役割り分担、参加者募集等協議 15名

令和5年8月10日 四大地会館 役員会 進行状況確認 27名

令和5年9月9日 四大地会館 役員会 同上 27名

令和5年10月10日 四大地会館 役員会 最終確認 30名

令和5年10月23日 浜北文化センター 会場準備・講師打合せ 33名

令和5年10月24日 浜北文化センター

午前：講演会「ひきこもりだったわが息子～居場所づくり」

講師 佐々木 善伝 氏「不登校・ひきこもり気仙地区父母の会」事務局長

午後：活動発表、演芸大会 出演約110名 参加者約300名

令和5年11月10日 四大地会館 役員会 事業のまとめと反省 今後の課題と方針

#### 《成果》

- 地域の課題として地域自治会・町内会・亀玉地区社会福祉協議会等、地域各種団体と連携し、「引きこもりの居場所づくり」についての講演会を開催できたことで「ひきこもり」が一部の特定の人だけの問題ではないことを多くの方に知っていただく良い機会となった。
- 併せて開催したシニアクラブ活動発表「演芸大会」では日頃の練習成果を発揮できる場を設け高齢者の生きがいを高め、健康づくりと相互交流を深めることが出来ました。

# 《今後の方針》

## ○地域見守り活動

地域自治会、社会福祉協議会等と連携し、情報の共有化を図り、問題を提起しながら活動を進めていきたいと思います。

会員、地域住民と情報交換、交流を深め、元気でいきいきと暮らせる地域づくりをしていきたいと思います。

防犯・防災情報など地域住民のための防災避難マップなどの配布活動を行っていきたく思います。

## 【活動の様子】

### ひきこもりの居場所づくりに関する意識調査

## 調査結果報告書

令和5年10月28日

浜松市シニアクラブ連合会 鹿玉地区連合会

#### 調査の概要

- 調査の目的及び対象  
ひきこもりについて、意識的・地域として何か考えるため、鹿玉地区社会福祉協議会関係者に対し、ひきこもりに対する意識を調査した。
- 調査方法と調査日  
研究会協議者に対しアンケートを実施、118人が回答  
調査日：令和5年10月24日
- 報告書を見る際の注意  
①調査結果の比率は、小数点以下第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100.0%にならない場合があります。  
②選択肢が長い場合、略称等を用いていることがあります。  
③自由記述は全記載しました。ただし、一部を加筆修正しています。

#### 調査結果

##### 質問1 調査対象の居住地域

鹿玉地域に住んでいる人が65人(55.1%)で市外が2人(1.7%)、県外が1人(0.8%)でした。

居住地域	人数	割合
鹿玉地区	65	55.1%
市外	2	1.7%
県外	1	0.8%
市外	16	16.1%
市外	2	1.7%
市外	2	1.7%
市外	2	1.7%
市外	2	1.7%

##### 質問2 調査対象の年代

最も多い年代は、70代が56人(46.6%)で、次いで、60代が32人(27.1%)でした。

年代	人数	割合
10代	1	0.8%
20代	3	2.5%
30代	4	4.2%
40代	3	3.3%
50代	32	27.1%
60代	32	27.1%
70代	56	46.6%
80代	3	3.3%
無回答	1	0.8%

##### 質問3 ひきこもりは特定の人の問題で自分に関係ないと思いますか。

関係ないと思う人は1人(0.8%)と最も少なく、関係ないとは思わないと思う人は96人(80.5%)が最も多く8割を占めました。

回答	人数	割合
関係ないと思う	1	0.8%
関係ないとは思わない	96	80.5%
関係ないとは思わない	14	11.9%
関係ない	4	3.3%
無回答	4	3.4%

##### 質問5 ひきこもり問題の解決に向けて、地域の人が協力できるかと思っていますか。

あると思う人が72人(61.0%)で、協力できるかと思わない人が11人(9%)を最も多くしました。具体的に協力できることを自由回答で聞いたところ、68人から回答がありました。この中で10件以上の回答があり、地域としての比較的負担が少なくできる方法として、声を掛けること(15人が回答)、見守り(11人が回答)などの意見がありました。

回答	人数	割合
あると思う	72	61.0%
ないと思う	11	9.0%
無回答	35	29.9%

##### 質問4 ひきこもりになっている人の依頼についてどう思いますか。

お断りな依頼と思ってる人は33人(28%)で、断らない依頼があると思ってる人は71人(60.1%)と半数を超えていました。

回答	人数	割合
お断りな依頼	33	28.0%
断らない依頼	33	28.0%
断らない依頼が多い	41	33.9%
断らない依頼	41	33.9%
無回答	4	4.1%

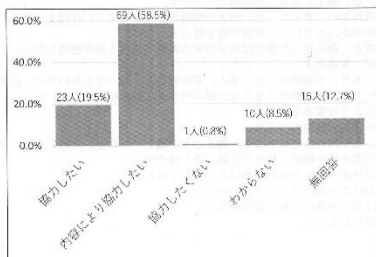
#### 具体的に地域で協力できると思うこと (自由記入欄)

- 見守ること大切だと思う、ひきこもりの方がいる家庭を知っていても、知らなくても、何もなかったかのように声を掛け合うことが大切。
- 具体的にわからない。
- ボランティアで参加する。
- 地域の人たちで話し合ってもらえることは協力したい。
- 見守り
- お話を伺い、話を聞く。
- 家族の相談になる。人とのつながりに協力する。
- 顔を会わす、返事がなくても必ず挨拶する。声掛けをする。笑顔をむけるなど、家族の話し相手になるなど
- 楽しいイベントに家族ぐるみ参加できるように誘う。
- 情報が不明であるし、当事者家族も悩んでいる場合も多いと思う。具体的に誰か話で話して協力できることを検討できればと思う。災害時の避難対策等が必要。
- 特別だと思わない寄り添う関係づくり
- 声掛け、コミュニケーションをとる。静かに見守る
- 家族の人たちとの交流をする。
- 地域社会の中でこころから(愛)のある人間関係づくりの大胆さを具体的に抱きたいですね、イベントがあれば話してみたい。

- 見守り。
- 偏見をなくし見守ることが必要。
- 偏見を持たず、やさしく見守ること。何かしらできることに少しでもよいので参加する。
- 機会を見て声掛ける。
- すぐには思いつかない。
- 地域での「見守り」「情報の共有化」が必要、プライベート情報なので要注意
- （ひきこもりは）普通の人間としての生活と同じだと感じた。特別な人間ではないことがわかった。
- 地域でも協力できるような「仕組み」を作っていくのが必要と思われる。
- ひきこもりの人との交流の輪を広げ、相互理解を深める。ひきこもりについての学習会を開き、ひきこもりがなぜおこるのか、なおすにはどうすればよいかな地域住民として何をすべきかなどについて考えるところにも協力を求める。
- 受け身であることが大切だと思う。本人家族の思いを聞く機会があればしっかり聞きたいと思います。
- 具体的には（わからない。）
- 具体的には思いつかないが、その時、できることがあれば協力したい。
- 近所の方たちとお話をよくして、皆さんと見守っていきたいです。
- 具体的にどうしたらよいかわからない。
- 余計なことは考えないで、平常心で人として優しきをもって、自分の身内ぐらいに思いながら声掛けしていくことかな（と思う）
- 話し相手、見守る。そんな中無理強いしない、深入りしないことを心掛けたい。
- 地域の人たちとの交流をもっていく。引きこもりの人、その家族と接して生かしていく。簡単にはいかないけれど根気良く接して心を開いてもらうまで無理せず自然体。
- 近所つきあい（挨拶、何気ない言葉かけ）声をかける、目を向ける、反応がなくても継続が大切。
- その家族に対しても個別（偏見）ではない接し方が大切。
- 挨拶遣い。
- 差別という特別扱いをしない、声掛けをする。
- 相談、話し相手になる。外出時のサポート。
- 表に現れない、表したくない個人の課題をどうとらえていけばまったくわかりません。
- 話し相手がいるといい、交流の場を設ける。
- 該当者と一緒になった場合は自分の能力範囲でできる限り援助したい。
- 居場所、家族会。
- ひきこもり、不登校のこと、本人、家族のことを知ってもらいたい。居場所をつくること、ひきこもりの子が働けるような仕組みづくりに取り組んでもらいたい。（地区社協がやっているような家事支援とか）
- 見守り隊等、居場所づくり
- ひきこもりの存在を知ること。働くことが難しいけれど、引きこもりに限定しないけれど、人と交流を持つ機会、集まる行動の場を増やす。
- 本人が外出の際に声掛け（あいさつ）してほしい。
- 気にかけていただけたらうれしいです。
- さりげなく声掛けする。家族の方へ
- 現状がわからない。

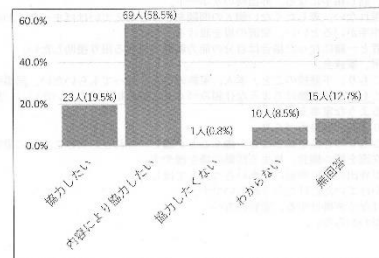
- 本人が得意なことにつながる社会参加が地域で共有できる場づくり（気の合う仲間づくり等）。
- 居場所づくりや家族会の立ち上げやそのような場の情報提供。
- 専門機関などの情報提供、話を聞いてあげる。
- 得意な目で見ない。
- 「何かできることはないですか？」とか差し入れ（お菓子のおすそ分け）とか温かく気にかけている姿勢を見せること。
- 集まれる、行くことができる場所の提供。（その場では手出ししない）
- ひきこもり支援家族に対しての声掛け等。
- ひきこもりに至った事例を理解して貰えない。温かく見守る。
- 偏見を持たずに接する。
- （定期的な）家庭訪問・保護者とお話をたくさんする。
- ひきこもりについて理解してもらいたい。ひきこもり支援が広がってほしい。
- 毎日のあいさつや一言声掛け等により、皆が見守っているよ、一人じゃないと感じさせることが大事だと思います。
- 自分自身で積極的に先頭に行こうとはできないが、バックアップ、協力をしたい。親家族とのコミュニケーション。
- 外に本人が出た場合、声掛けをする。挨拶をする。
- 日中誰でも利用できるような場所の検討、挨拶をする。
- 当事者、その家族の思いに寄り添える人、場所を作る活動。
- あるとは思わくがどのように協力したらよいかわからない。
- なるべく声を掛けてあげ、楽しいお話をしてあげたらいいと思います。
- 家族との話を聞く。

質問6 地域でできることを取り組んだ際、地域の一員として協力したいですか、協力したいと内容により協力したいを合わせて92人(78.0%)と協力したくないの1人(0.8%)を大きく上回りました。



- 本人が得意なことにつながる社会参加が地域で共有できる場づくり（気の合う仲間づくり等）。
- 居場所づくりや家族会の立ち上げやそのような場の情報提供。
- 専門機関などの情報提供、話を聞いてあげる。
- 得意な目で見ない。
- 「何かできることはないですか？」とか差し入れ（お菓子のおすそ分け）とか温かく気にかけている姿勢を見せること。
- 集まれる、行くことができる場所の提供。（その場では手出ししない）
- ひきこもり支援家族に対しての声掛け等。
- ひきこもりに至った事例を理解して貰えない。温かく見守る。
- 偏見を持たずに接する。
- （定期的な）家庭訪問・保護者とお話をたくさんする。
- ひきこもりについて理解してもらいたい。ひきこもり支援が広がってほしい。
- 毎日のあいさつや一言声掛け等により、皆が見守っているよ、一人じゃないと感じさせることが大事だと思います。
- 自分自身で積極的に先頭に行こうとはできないが、バックアップ、協力をしたい。親家族とのコミュニケーション。
- 外に本人が出た場合、声掛けをする。挨拶をする。
- 日中誰でも利用できるような場所の検討、挨拶をする。
- 当事者、その家族の思いに寄り添える人、場所を作る活動。
- あるとは思わくがどのように協力したらよいかわからない。
- なるべく声を掛けてあげ、楽しいお話をしてあげたらいいと思います。
- 家族との話を聞く。

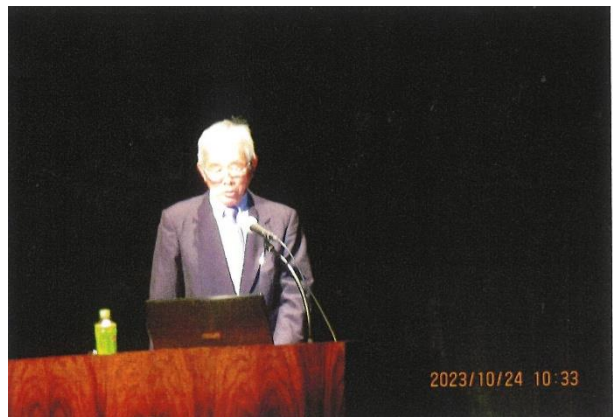
質問6 地域でできることを取り組んだ際、地域の一員として協力したいですか、協力したいと内容により協力したいを合わせて92人(78.0%)と協力したくないの1人(0.8%)を大きく上回りました。



#### 質問7 自由意見(講演会の内容を含む意見)

- ひきこもりに対する理解を社会全体で共有していかなければならないと思った。不登校を含めて、誰もが進む可能性のある行動であり、社会とのつながりを断つてはいけないと思う。
- テレビ等で見るだけでなく身近にひきこもり、でも、誰とか身近な人がそうなるかもと思うと他人事ではないと思う。自分でできることを考えていきたいと思っています。今後の民生委員活動に生かしていきます。
- 素晴らしい講演を聞いてためになりました。今後の活動にも応用していきたい。
- 後ろの方がごちゃごちゃ断ちてうるさかった。講師の方の一言一言に対し、自分の主張をしているようで迷惑でした。
- 貴重な体験談が聞けたりが良かったです。
- 社会に関わりたくないという思いから社会に何か一つ関わることでもよかったと思える一歩、寄り添いつつ、その一歩に導くことができるか。無理強いが思い込む。このプログラムの展開は難しいと思う。質問等や設け個別の対応があればいい。
- 講演会に出席している人たちは問題ないが、出てこれない人はいかに出させるかが問題です。対策をお願いします。
- 無理な行動を押し付けてはいけない。理解をその人の立場になってやること。
- 貴重な意見等聞きたい。(質問の時)「生の声」(だったので)マイクを使って最初から聞きたいと思った。役員の方、配慮をほしかった。
- 自分の子が引きこもっていることや不登校になっていることも随分している家庭があるのではと思う。
- 教室活動の充実。
- 不登校やひきこもりが一部の特定の人の問題でないとされていて欲しい。若男女の誰もがなり、しかも当事者になれば、深刻であり、とても他人事とは思えません。にも関わらず、ひきこもりに対する世間の関心は低く、対策も十分ではありません。誰もがなることなので、特別視せず、地域ぐるみで取り組めるようにしたいと思っています。
- 私としてはひきこもりになってしまった人は心が丈夫でない弱い人と判断します。だから人として生きていける自信を持っていたら自分な自分づくりとそれを育て守り続けていくような周辺のシステムを築き上げていくことが大切ですかね。
- ぜひ、今後も多方面にわたり講演会をお願いしたい。
- ご家族であっても困難があるので、地域の中で支え協力するのはとても難しいと思います。
- 「学校は行かなければならないところではない」は同意です。自分が受けてもらう場がなければ一番だと感じます。講義内容ではありませんが、講義中、スタッフの声がずっとしていたのが不快でした。
- 過去において、地元の祭り、行事に参加せず設けこもった期間があり、その時はそれで良いと思込んでいた。今ではぜひふんもつけない時間を過ごしていたものだと思う。人との出会いは宝物ですね。かわな野外活動センターなどの施設に宿泊するとテレビやインターネット、スマホが使えないので自由な時間が増える。テレビは楽しんでるのではなく、テレビに拘束されているのが現状であるよう（に感じる）。
- 大変有意義なお話を聞くことができた。本人の気持、親の気持ちを想像もつきませんが、命を大切に生きてほしいです。
- 今まで考えたことがないので、よくわからないが、今日の講演を機に考えてゆきたい。
- 有意義な講演ありがとうございました。亀玉地区の今後の活動を楽しみにしております。

- 思っていたより大変感動しました。内容でも私たちが近くでしたら少しでもお手伝いができたと思います。私は震災後3回ほど現地に行きました。3回目に行ったときは本当に驚くほど見事に復興していて安心し皆さんの力の大きさを感じました。また、機会がありましたら行きたいと思います。三陸鉄道が大好きです。菅代とか久慈とか宮古の駅も大好きです。がんばってください。
- いい企画をされました。
- 居場所づくりに協力ができたらなと思います。
- 自分も81歳と高齢のため、たぶん協力できないと思う。
- 今回こういった講演会（ひきこもりをテーマとした）を実施していただけたことありがたいです。ひきこもりへの理解が深まり支援の輪が広がってほしいです。（当事者の親）
- 「父母会の意義」のスライドからもう少し詳しくお話を聞きたかった。活動内容、事例、ひきこもりの実態など。
- 今日あらためて息子に対する強し方、感謝の言葉の声掛けについて、反省いたしました。本日はありがとうございました。
- 子供世代だけでなく、年寄りにも当てはまる。そういった人たちの居場所、わかっているようでわかっていない。もう少し具体的に浜北の中にあるのが知りたい。
- お子さん、子どもたちの自己効力感を高めるような社会・地域を作っているようになると良いと思いました。※自分が生きることへの喜び、誰かのためにしている（目標達成に対する能力があると自分で認知するための言葉）
- 今日、来場してとてもよかったです。
- 長い間にどこかで立ち直る機会があったように思います。母親任せにすぎたと思います。家庭が運かったことはよかったですと感じますが、父親としてよいアドバイスが欲しかった。
- ひきこもりからの立ち直りの機会やきっかけ、周りからの協力などの見守りの仕方などを聞きたいです。
- 第三者の加入は受け入れられない。



講演をされる佐々木 善伝 氏





午後の部シニアクラブ活動発表「演芸大会」

